

国際的な評価機関である仏エコバディス社のサステナビリティ調査において キヤノングループが上位5%の「ゴールド」評価を獲得

キヤノングループは、企業のサステナビリティ活動に関する国際的な評価機関であるエコバディス社（EcoVadis、本社：フランス）による調査において、調査対象企業の上位5%が認定される「ゴールド」評価を獲得しました。



エコバディス社の「ゴールド」メダル

エコバディス社のサステナビリティ調査は、世界 185 カ国、250 業種、150,000 社以上の企業を対象に、同社独自の評価基準によって、企業の活動を「環境」、「労働と人権」、「倫理」、「持続的な資材調達」の 4 分野で包括的に評価するものです。世界中で企業のサステナビリティ活動への関心が高まる中、エコバディス社の調査結果は、多くのグローバル企業が取引先を選定する際に参照されています。

今回の調査でキヤノングループは総合的に高い評価を得ました。なお、キヤノングループの「ゴールド」評価取得は、今回で 8 回目となります。

キヤノングループは今後も企業活動を通じて、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

〈キヤノングループのサステナビリティへの取り組みについて〉

キヤノンは、持続可能な社会の実現に向けて、環境課題や社会課題に対する取り組みを強化しています。

環境への取り組みとしては、「気候変動」「資源循環」「化学物質」「生物多様性」を重要課題と位置付け、事業活動と連動した取り組みを製品ライフサイクル全体で進めています。環境目標として、「ライフサイクル CO₂ 製品 1 台当たりの改善指数 年平均 3%改善」を 2008 年に定めて以来、これまでに年平均 3.95%（2008～2023 年）、2008 年からの累計では 44.4%の改善を達成しています。このほか、生産拠点における省エネルギー活動や製品のリユース・リサイクル、再生材の活用など、あらゆる活動を通して CO₂ 排出量を 2050 年にネットゼロとすることを目指しています。

また、キヤノンは、従業員や取引先をはじめとする事業活動に関わるすべてのステークホルダーの人権を尊重しています。「キヤノングループ人権方針」のもと、グループ全体で人権デューデリジェンスを実施し、国内外のグループ会社社員への啓発活動を進めています。このように、人権尊重や人権保護に向けた取り組みを強化するとともに、グローバルサプライチェーンにおける社会的責任を推進する企業同盟である「Responsible Business Alliance（RBA）」の加盟企業として、RBA 行動規範[※]の遵守に努めています。

※ 製造業のサプライチェーンにおいて、労働環境が安全であること、労働者が敬意と尊厳を持って扱われること、さらにその事業活動が与える環境負荷に対して、企業が責任を持っていることを確実にするための基準を規定したもの。